



学校だより

たくま

白鷹町立荒砥小学校 令和 2年 8月 7日

着実な歩み 確かな成長

校長 菅原 透



8月に入ってようやく梅雨が明け、夏本番を迎えました。残暑は見通せませんが、長い夏は期待できないのかもしれませんが、明日からの夏休みで楽しい思い出をたくさん作ってほしいと願っています。

令和2年度は、新型コロナウイルスの影響で、学校に登校できない状況からのスタートでした。教職員による家庭へのポスティングと、保護者の皆様による学校へのポスティングにより、最低限の学びをすすめながら、学校再開の瞬間を待ちました。そして5月18日。ついに、269名の子ども達が学校に来れることになったのでした。



この1学期は新1年生39名を迎え、感染防止対策を念入りに施しながら、着実に歩み続けてきました。大きな行事は2学期以降とし、水泳は全県で取りやめ、全校集会も自粛となりました。しかし、各教室で、担任と子ども達が学び続け、地道に学習を積み上げる毎日になったように思います。学校再開したての頃、子ども達を“学びに飢えている”と見立てましたが、学習に向かおうとする姿勢が1学期間通して感じられました。その主体性は生活面でも見られ、6年生を先頭に“あいうえお名人”となる活動が充実しました。あいさつ運動や朝ボランティア

アは毎年上級生が取り組んできたことです。しかし、今年は“自分から”という意識が高く、生活に勢いがついてきました。「立腰（りつよう）」のかけ声で姿勢を正す習慣も定着してきました。花火を打ち上げるような活動も大事ですが毎日ルーティーンとしてじっくり取り組むことが、本物の力になることを実感した1学期でもありました。



夏休みを経て、感染状況がどのように変化するか…。子どもの命を守ることを最優先に、子どものために何ができるかをとことん突き詰め、子どもの健やかな成長につなげていきます。お陰様で終業式を迎えることができました。これまでの皆様のご支援に心から感謝いたします。

◆メンコちゃんとの会話から
校；夏休みでみんなに会えなくなるの…、さみしくなるなあ…。
メ；学校があったほうがいいです。
校；ん、休みではなくて？
メ；みんなと会えなくなるし、話したりもできなくなるから…。
メ；水泳が一番の楽しみなのに…それもできないから…。
メ；これぐらい短いのなら、学校を続けてもいいくらいです…。
※学校はやっぱりいい…そう思ってくれる子ども達。嬉しいですね。